

## 本校の未来像について—中高一貫教育の良さを最大限に生かして—

山口県立下関中等教育学校 校長 大木 至

### はじめに



下関中等教育学校は素晴らしい学校であり、今後益々輝くに違いない魅力溢れる学校です。このように 育ててくださった町田・永富・藤嶋・中垣各校長先生方とこれまでご勤務なされた諸先生方のご尽力並びに保護者の皆様のご理解とご協力に、まず深い感謝の念を捧げたいと思います。

私は、併設型中高一貫教育校である高森みどり中学校・高森高校に教頭3年、校長4年ほど勤務させていただきました。本校への辞令もその経験を生かせという人事だと身の引き締まる思いで拝命しております。

今回は、創立12年目を迎え一層の飛躍をめざす本校の「中高一貫教育の良さを最大限に生かした未来像」についてお話しします。

### 今求められる力とは

本校の未来像を語る前に、変化の激しいグローバル化が進展する現代社会が求める人材力について触れておきたいと思います。学校として生徒一人ひとりに「豊かな人間性、健康・体力、確かな学力を総合した生きる力を育む」という教育活動の大目標は不変ですが、加えて生徒に次の力を十分に育むことが今求められています。

- ・ 自ら課題を発見し解決するために必要な思考力・判断力・表現力の能力。
- ・ グローバル化の進展の中で、言語や文化が異なる人々と協働していくために、国際共通語である英語の能力を、真に使える形で身に付けること。
- ・ 英語のみならず、我が国の伝統文化に関する深い理解と、異文化への理解をもとに躊躇せず<sup>ちゅうちよ</sup>に交流する態度。
- ・ 主体性を持って他者を説得し、多様な人と協働し新しいことをゼロから立ち上げることのできる、社会の現場を先導するイノベーションの力。

(出典：平成26年12月22日中央教育審議会答申「高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」)

### 中高一貫教育の良さを最大限に生かした本校の未来像

本校の未来像は、「3年制の進学校にはできない、今のニーズにマッチした中高一貫教育の良さを最大限生かした進学校」であると考えています。

では、中高一貫教育の良さとは何でしょうか。それは、「社会を生き抜く総合的な人間力」と「高い学力」の2点を6年間の一貫教育の中でしっかりと培うこ

とができることに他なりません。

「総合的な人間力」とは、豊かな人間性と困難を突破する力を身に付けていることです。本校はこれまでも生徒会活動や多彩な学校行事、部活動によって生徒の人間力を育ててまいりました。今後は、学校行事の精選と充実を図りながらも、生徒会活動や部活動などにおけるリトルティーチャー制の取組を進め、思いやりやリーダーシップなどの一層の人間力を育てていきます。

「高い学力」については、知識・理解のみならず、課題解決のために思考力・判断力・表現力を磨き、グローバル社会を生き抜くために主体性・多様性・協働性（主体的に多様な人々と協力して物事を作り上げる力）を総合的に育てていくことが求められています。このため、今年度、教育内容を積極的に前倒した教育課程（学習進度計画）やアクティブラーニングの導入、大学との連携を図った総合学習「海峡学」の充実、3年生での接続テストの改善、後期課程からの進路別クラス編制などに取り組み、生徒が大きく伸びるための環境を整備したところです。

既に発表されている平成32年度からの大学入試改革を<sup>にら</sup>み、年々入試も知識だけではなく思考力や表現力、主体性を問う内容に変わってきています。この新たな動きに的確に対応し、最難関大学進学も含め、今後とも生徒の皆さんの希望進路の実現に邁進します。

## おわりに…二項対立を超えて

本校の教育活動は、これまで述べてきたように「人間力育成」と「学力向上」の二本柱によって進めています。未来の本校が一層魅力ある学校となるためには、いずれかが<sup>おろそ</sup>かになっては実現しません。二者のバランスが完成し、その頂点立ってこそ、すべての生徒の皆さんの高い満足度と多くの志願者が集まる全国に名を轟かせる学校となれるに違いありません。

そういう意味では、過去の日本の教育界で議論されてきた「学力を重視するのか」「人間力を重視するのか」という二項対立的な議論を超えたところに本校の未来があるとも言えると思います。

今後とも、「地域の特性を生かし、国際化の進展に対応した学校づくり」を進め、「誇りと自信をもって世界に飛躍する人材の育成を図る」ことができるよう教職員一丸となって教育活動に取り組んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。